

(事業者名) 学校法人藤田学園 藤田医科大学
 (事業名) オンラインを活用した高齢者の社会的交流支援

サービス概要 (イメージ)

- ・**高齢者最適化UI/UX**を有するオンラインサービス
- ・**自治体の介護予防（健康増進）事業等に活用**できる、豊富なコンテンツ
- ・**AIによる感情推定機能**を活用した、**提供するコンテンツの個人最適化**

1. 高齢者に最適化されたUser Interface / User eXperience



わかりやすいUI設計

- ・タブレットやパソコンで利用可能
- ・見やすく、理解しやすいUI

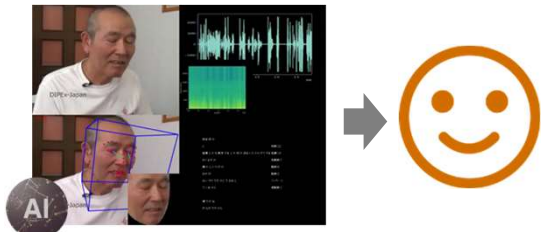
2. オフライン・オンラインいずれでも利用できるサービス仕様



豊富なコンテンツを搭載

- ・オンライン・オフラインいずれでも利用可能なコンテンツを搭載（体操、脳トレ、娯楽など）
- ・自治体は介護予防（健康増進）事業等で活用可能

3. 体験時の表情、音声、言語等の情報を用いた、コンテンツの個人最適化



感情推定AI機能

わくわく（Happy）を定量的に評価し、「個人最適化されたコンテンツ提供」や「コンテンツ改良」に活用

連携団体を含む、実証の座組



藤田医科大学

- ・医学的エビデンスに基づいた実証の推進
- ・研究成果の学術的な情報発信



GEORGE
AND
SHAUN
George & Shaun, Inc.



豊田市

Toyota City

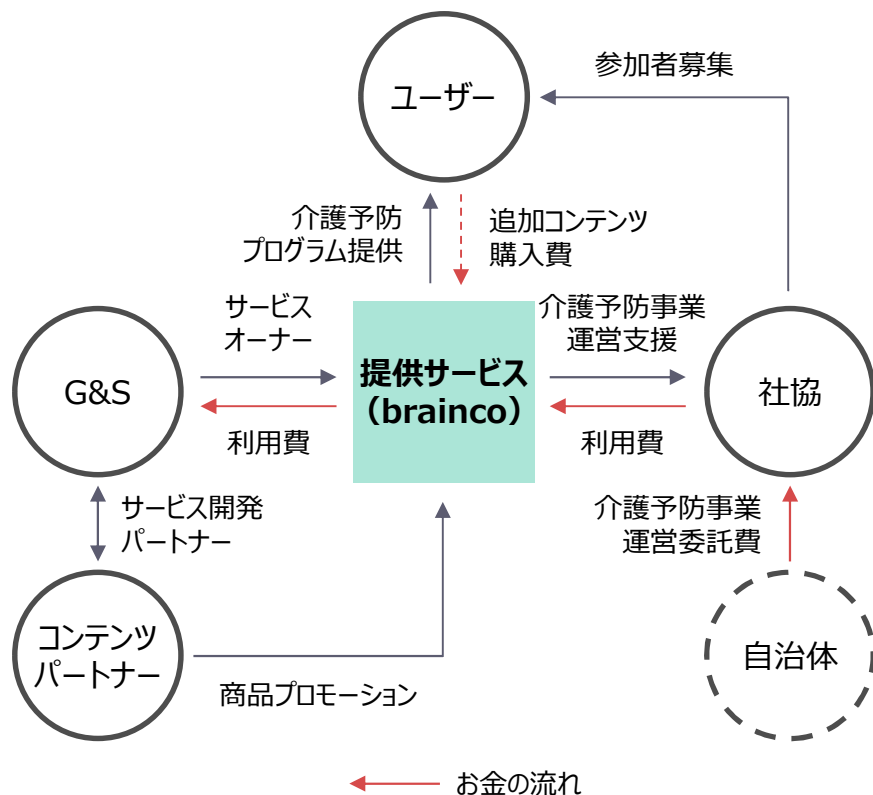
- ・サービスの開発・改良
- ・市内での実証における関連部署との調整
- ・サービスで取得した情報の分析
- ・実証の計画立案、管理

(事業者名) 学校法人藤田学園 藤田医科大学

(事業名) 対話型ツールを用いた健康・生活機能の持続的モニタリング

社会実装時の事業モデル

- ・より多くの高齢者への介護予防（健康増進）プログラム提供を目的に、サービス提供は「フリーミアムモデル」を主とする
- ・事業化に際して、地域在住高齢者の介護予防（健康増進）に関する課題を抱える「自治体」向けの販売を主軸とする
- ・事業拡大に際して、プロモーションを行いたい法人向け、意欲の高いユーザー（個人）向けに販売する



今年度の実証項目 (昨年度の実証成果含)

①昨年度の実証成果

目的：サービスの有用性および操作性の評価

対象：地域在住高齢者20名（70歳未満3名、70歳代14名、未回答3名）

内容：ダイレクトメッセージ送付で参加された高齢者に、サービスの一部機能（脳トレ、体操、チャット機能）を体験していただいた

結果（アンケートの各設問の肯定的な回答の割合、4点中3点以上）：

- ・設問「サービスが地域社会との交流に貢献しそうか」：90.0%
- ・設問「サービスが生きがいづくりに貢献しそうか」：94.1%
- ・得られた意見：「自宅で参加できる仕組みがよい」「みんなで一緒に取り組むことが楽しい」「個々人の意識別や目的別で体験会の内容を分けたほうが良い」など

今年度の実証項目

②誰に対して

地域在住高齢者（最大100名）

③どれくらいの期間

3か月～6か月間程度

④何を検証するため

- ・サービスの受け入れおよび操作性（実証期間中に、どの程度サービスを利用されるか、適切に操作ができるかなどを評価）
- ・サービス利用による行動変容（長期的なサービス利用の後に、身体機能や認知機能、生活状況に変化が生ずるかを評価）

⑤どのような実証

地域在住高齢者に、サービスの各種機能（脳トレや体操等の各種コンテンツ、チャット機能）を、長期間利用いただく。受け入れや操作性は、アンケートおよびサービス利用履歴から評価する。サービス利用による行動変容は、サービス利用前後の身体機能や認知機能、生活状況から評価する。

※上記実証と並行して、自治体職員に介護予防（健康増進）事業等としての活用可能性をヒアリングする。